

協会だより

小笠教育研究協会事務局
第2号
平成30年6月20日



平成30年度小笠教育研究協会 各研究部活動方針・一斉研究報告会一次案等

例年、国語・数学の研究部に参観者が集中します。効率の良い研修が行えるように、上限を設けさせていただく場合があります。近年、各校の参加人数枠も設けさせていただいておりますので、御了承ください。詳細につきましては後日お知らせいたします。

お便りのおわりに、今年度の教育講演会について記させていただきます。

研究部名とテーマ	活動方針や柱	一斉研究報告会の一次案等
国語教育 豊かな言葉で 確かに伝え合う 国語科教育 ～生きて働く言葉の力の 育成を目指して～	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科学習会の開催 ・各小中学校の校内研修（研究授業・研究発表会）等への国語研究委員の参加 ・国語研究委員による校内外研究授業への相互参加 ・一斉研修報告会での授業公開及び研究協議 	小学校を開催校として検討中
社会科教育 『社会的事象に主体的に向き合い、よりよい社会のあり方を追究し創り上げていこうとする子どもの育成』 [小] 社会的事象を徹底的に探究し、自らと社会とのつながりを様々な見方からとらえ、よりよい社会のあり方を考えることができる力を育てる [中] 広い視野に立って社会的事象を探究し、社会の一員としてよりよい社会の実現に向け、行動することができる力を育てる	○新学習指導要領を視野に入れた小笠の社会科の授業づくり (小学校) <ul style="list-style-type: none"> ・地域教材の発掘と授業化 ・評価のあり方の指針作成 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善 →「思考ツール」を活用した授業改善 等 (中学校) <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が主体的に取り組む授業形態の開発 ・若い先生たちの授業力向上（ベテランと若手の交流の場の設定） → 授業のネタ、思考ツール、ICTの活用、小笠授業案 等 	静岡県総合教育センターの指導主事を講師に招き、新学習指導要領の学習の場とする。(小中合同開催) ※現在、講師を調整中。講師の確保が難しい場合は、小学校は授業公開と学習会、中学校は新学習指導要領について学習会を、小中別で開催する。
数学教育 考え合う楽しさを味わいながら、数学を創造する授業をめざして	○ 思考力・表現力を育む授業を通して、研究を深め、会員の授業力向上に資する。 1 基礎・基本の定着が図られる多様な指導を工夫する。 2 数学的な見方や考え方を駆使しながら、課題解決に取り組む工夫をする。 3 思考や表現を「振り返る」ことで、考えが深まったり視点が広がったりできるようにする。 4 「自分たちで算数・数学を創った」と実感できる指導を工夫する 5 獲得した知識や考え方、表現の仕方を、他の場面に進んで活かす手だてを工夫する。 ○研究の成果を、秋の一斉研修報告会、静教研夏季大会の実践発表を通して会員に広める。	[小学校] 授業者：宮城勇介 教諭（白羽小） 司会者：萩原卓也 教諭（大淵小） 助言者：未定 [中学校] 授業者：伊藤良典 教諭（城東中） 司会者：池田直茂 教諭（桜が丘中） 助言者：未定
理科教育 科学的な見方・考え方をはたらかせて、主体的に自然の事物・現象に関わりながら、問題解決する授業	<ul style="list-style-type: none"> ・理科論文集配布 ・学生科学賞の小笠地区審査会 ・一斉研 ・H31 静教研の発表準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・参観授業 発表者：増田有希教諭（城東中） ・事後研修会

<p>音楽教育</p> <p>音でつながろう　ときめきの心</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校9年間を見通した音楽指導の系統性についての研究を推進する。 ・楽しく学ぶことができる音楽授業のあり方について、特に表現領域（歌唱・器楽・音楽づくり）の指導法に焦点を当てた授業実践を推進する。また、指導力向上の機会として、実技研修会を実施する。 ・研究や授業実践の内容について、音楽部報「Sing a song」を通して発信したり、授業公開を積極的に行ったりすることで校内及び各学校間のネットワーク構築を積極的に推進する。また、1年間の研究成果を発表する場として一斉研究報告会を実施する。 	<p>授業研究をもとに、表現領域の指導方法について学び合う。また、講師を招聘し、小中9年間の指導内容の系統性について学んだり、日頃の授業実践について報告し合ったりする機会とする。</p>
<p>美術教育</p> <p>子どものおもいをいかし、かかわりを深め広げる授業</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 教材や題材研究を通して授業力向上を図る。 2 小中学校間連携（9年間を見通した指導のあり方を研究する） 3 表現活動と鑑賞活動の一体化 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業公開 ・事後研修会
<p>保健体育教育</p> <p>運動の楽しさを味わい、自ら課題を解決する子どもを育てる体育・保健体育授業</p>	<p>○ 授業を語る教師の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の主旨を理解し、新たな指導方法の研究を進める。 ・小中学校のつながりや系統性を意識し、思考、判断、表現力を高める方法を研究する。 	<p>小学校において、「ボール運動～陣地を取り合うゴール型～」の領域で公開授業を行う。新学習指導要領で求められていることを念頭に置きながら、具体的な実践方法について学ぶ機会としたい。</p>
<p>技術・家庭科教育</p> <p>学びをつなげることを通して、実践的な態度を育てる授業</p>	<p>新学習指導要領実施に向けて、基礎研究と授業実践</p> <p>H30 静教研発表に向けての継続研究</p> <p>H30 静教研小笠大会に向けての準備</p>	<p>技術：一斉研前に授業公開を行い参観する。当日は事後研修。※一斉研は公開授業なし。</p> <p>家庭：小学校家庭科と中学校家庭科で合同実施。小笠南小学校で授業公開と事後研修を行う。</p>
<p>小学校家庭科教育</p> <p>学びをつなげることを通して、実践的な態度を育てる授業（静岡県技術・家庭科研究部テーマ）</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 つきたい力を明確に押さえ、子どもが主体的に取り組むためにより効果的な学習活動を仕組む。 2 各教材における評価のあり方を検討し、指導に生かす。 3 年間を見通し、各題材の学びがつながるような題材構想を考える。 4 上記3点を研究し、一斉研究報告会で研究授業を公開する。 	<p>本年度は、中学校家庭科研究部と合同の一斉報告会を行うため、事前研修や準備運営も合同で実施する。講師は、静岡大学小清水貴子氏を招聘予定。内諾済み。</p>
<p>英語教育</p> <p>小・中9年間を通してたくましく英語を学ぶ生徒の育成を目指した授業づくり</p>	<p>研究テーマに基づいて推進委員が授業実践を重ね、それらをもとに一斉研究報告会で参加者と意見交換をする。一斉研究報告会では小笠地区の英語授業で育てたい生徒の姿を確認し、そのために必要な授業づくりの視点や工夫について参加者全員で意見交換を行う。</p>	<p>全体会では研究テーマに基づいた講演で参加者の意識を高め、後半の分散会では推進委員の実践を基に授業づくりについて話し合う。</p>
<p>生活科・総合的な学習</p> <p>気付き かかわり よりよく生きる 生活科・総合的な学習の時間</p>	<p>生活科や総合的な学習の時間に培ってきた課題解決や探求的な学習をさらに充実させ、主体的・対話的な学びに向かう学習活動を目指していく。</p>	<p>総合的な学習の授業研究と、その授業の研究協議</p> <p>授業者 鈴木喜多朗 教諭</p> <p>講師 検討中</p>
<p>特別活動</p> <p>楽しく豊かな生活をつくる集団活動の創造 ～集団の一人一人が参画する特別活動～</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 「誰もが話せる話し合い活動」に向かって研究を進め、その成果を通じて、各校への特別活動の推進に寄与する。 2 一斉研究報告会においては、授業公開の場を通して、上記の方向性を具体化し、特別活動の重要性及び取組の促進に努める。 3 上記の取組を次年度へ引き継ぎ、平成31年度静教研夏季研究大会への発表へとつなげる。 	<p>授業公開及び事後研修を基本とする。</p> <p>授業者：三浦幸香 教諭 (千浜小学校)</p>
<p>生徒指導</p> <p>機能的で継続可能な生徒指導体制の確立 ～開発的・予防的生徒指導について～</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 開発的・予防的生徒指導の研修推進 2 情報モラル教育の研修推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中学校の指導事例発表 ・講演・講話：静岡大学教職員大学院 教授 伊田勝憲 様 ・分科会（開発的生徒指導の各校の取組について）

<p>道徳教育</p> <p>『よりよく生きるための基盤となる道徳性の育成～考え、議論する道徳を通して～』</p> <p>考える発問の工夫、評価の工夫について研究を進める。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 「特別の教科 道徳」の平成 30 年度小学校完全実施、平成 31 年度中学校完全実施を踏まえ、国・県・静西・3 市の方針に基づいた、先進的な研究を進める。 2 小笠地区の道徳教育の充実と発展のため、一人ひとりの授業力等の向上を図ると共に、研究成果を発信する。 3 一斉研究報告会等、研究は部全体として組織的に行う。 4 平成 30 年度静教研道徳教育研究部夏季研究大会の成果等を生かす。 	<p>○授業実践に基づく研究協議 公開授業：2 年生道徳 田中あおい 教諭 (桜が丘中学校)</p>
<p>書写教育</p> <p>課題を見つけ、より正しく書こうとする子の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・席書コンクール、書き初め等の取り組みを軸とし、日々の書写指導や作品の評価を通して自分の課題がもてるように指導するとともに、児童生徒の学習意欲を高める。 ・夏季実技研修において講師の指導を仰ぎながら指導者としての力量を高める。 	<p>小笠地区席書コンクールの審査及び書写実技に関する研修</p>
<p>学校図書館</p> <p>「知識をつなげる 学びを広げる心をはぐくむ 学校図書館」 一本に出会い、本に関わり、本と生きる～</p>	<p>学校図書館や司書教諭の果たす役割が重視される今、司書教諭や図書館担当者としての力量を高め、本テーマに向けての活動を行う。</p> <p>(ア) 授業公開と講師招聘により、実践的な指導力を高めるための一斉研究報告会を実施する。</p> <p>(イ) 読書感想文や読書感想画コンクールへの参加を通して、読書意欲の高揚を図る。</p> <p>(ウ) 読書センター・学習センター・情報センターとしての機能を十分発揮し、学びを支える学校図書館の充実を図る。</p>	<p>授業を通して実践紹介を行う。 公開授業と分科会、事後研修・講話、各種研修会の報告や先進校の事例を紹介する。 授業者：竹村真紀 教諭 (掛川市立城北小学校)</p>
<p>学校保健</p> <p>自分の体と主体的に向き合う子どもの育成 ～がん教育を通して～</p>	<p>養護教諭ががん教育の実践を通して、主体的に自分の体と向き合う子どもの育成を目指す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究推進委員による、がん教育に関する保健指導についての研究報告。 ・静岡県教育委員会健康体育課教育主幹 松本美千代氏から、研究推進委員の研究を講評していただき、がん教育の在り方について教えていただく。
<p>事務</p> <p>子どもの豊かな育ちを実現する学校事務</p>	<p>学校経営に積極的に参画するための力量形成を、実務能力向上を目指した研修及び実践により進める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・指導講話：事務研究部長 掛川市立日坂小学校 佐藤裕子 校長 ・実践発表 ・分散会 ・共同学校事務室について
<p>特別支援教育</p> <p>一人一人の良さや可能性を伸ばし、豊かに生きる力を育む特別支援教育</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援教育の視点で、学校間・教師間の連携を密にし、組織の活性化を図る。 ・児童生徒の将来の自立を踏まえ、保護者を対象とした講演会を 9 月に実施する。 ・特別支援教育の推進者の世代交代を見据え、人材を育てるため、静教研での新人の参加率を引き上げる。 ・8 月に行われる静教研での分科会提案の準備をしておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・掛川市立大須賀中学校を会場に開催する。 内容は、授業事例検討会（VTR による）や分散会など。
<p>情報教育</p> <p>ICT を効果的に活用したアクティブラーニングの実現</p>	<p>プログラミング的思考をどの教科でも取り入れて行かなければならないので、「各教科におけるプログラミング的思考は何か」を具体的に提示できるようになりたい。本年度は、外部講師を招いて勉強会を行ったり、実際にプログラミング学習ソフト（「Scratch（スクラッチ）」や「Viscuit（ビスケット）」など）を使ったりして、プログラミング的思考についてのベースを作る。</p>	<p>大坂小の齋藤裕二教諭が、3 年生を対象に ICT を使ったアクティブラーニングの授業を行う（内容は未定）。授業後は、プログラミング体験（スクラッチやビスケットなど）のワークショップを開く。</p>

学校給食 「心と体の健康を育む食育」の推進	1 学校給食を含む食育を学校教育全体の中で体系的・計画的・組織的に推進する方法を研究する。 2 栄養教諭・学校栄養職員と学級担任・給食主任・家庭科主任・養護教諭との連携力を高める。 3 研修を通して栄養教諭・学校栄養職員の専門性を高める。	・公開授業： 授業者 未定（御前崎中学校） ※飯田健史栄養職員による TT 指導 ・研究協議及び講師による指導助言
事業部 「小笠の文化や教育力」を向上させる事業を計画し推進する	・児童生徒が1つのことに熱中して取り組むことを奨励し、その努力を称揚する。 ・他校の児童生徒の作品に接することを通して、児童生徒や教職員の意欲や意識を高め、小笠の文化や教育力の向上に役立てる。 ・児童生徒によって書かれた良い作品を選定し、文集にすることで、その努力を称揚する。 ・掲載された作品を児童生徒が読み、表現の仕方を学ぶことで小笠地区児童生徒の書く力を向上させる。	・小笠地区小・中学校総合作品展 9月15日（土） 16日（日） 17日（月） 菊川市総合体育館で開催 ・『小笠の文集』第131号の作成、編成、発行、活用。 ※11月中旬発行

平成30年度 教育講演会について

日 時： 平成30年8月7日（火）
会 場： 菊川文化会館アエル
講 師： 宮西 達也 氏（静岡県出身／絵本作家）
演 題： ニャーゴのやさしさ・ティラノのおもいやり
日 程： 受付 13:20～13:50
あいさつ・講師紹介 14:00～
講演 14:15～15:45（90分間）
お礼の言葉・閉会 15:45～16:00

一宮西達也さんの主な作品一

「おまえうまそうだな」（ポプラ社）
「きみはほんとうにステキだね」（ポプラ社）
「にゃーご」（鈴木出版）
「きょうはなんてうんがいいいだろう」（鈴木出版）
「おとうさんはウルトラマン」（学習研究社）

H30静岡県教育研究会評議員教育研究会 報告

H30.6.1 県会館

※ 小笠から、協会会長：安田彰（掛川二小）と協会幹事：伊村悠樹（堀之内小）が参加

1. H30 静教研基本テーマ 『ときめき かかわり 未来へつなぐ』

3大事業を柱に、研修の充実・発展に努める。

- ① 研究大会・・・本年度 8/8（水）・9（木）
H31は8/7・8、H32は8/5・6で決定済み
- ② 調査研究活動・・・統計グラフコンクール、国語・算数定着度調査
各部調査研究（ジュニア県展、読書感想文コンクール等）
- ③ 研究成果刊行・・・静教研だより（6・9・1月）、研究冊子（12月）、各部報



2. 「新静教研在り方検討委員会」の提案まとめ

平成31年度に浜松市が静教研から退会するにあたり、様々な課題についての提案があった。

- (1) 静教研会則を改正し、浜松市は退会後も会費を払えば、「会員になる資格を有する」とこととした。
- (2) 750万円の予算減に対して、研究部費や大会補助費などの削減をすることで対応する。
- (3) 静教研の研究大会会場や発表のローテーションが変更された。また、開催地域の区分けも変更された。

* 地区…東部・中部・西部⇒静東・静岡・静西、* 地域…浜松・湖西⇒磐周・湖西

→ 今後の小笠・榛原が担当する大会

H30 数学・道徳、H31 書写・理科・特別支援、H32 音楽・保体、H33 技術家庭・英語

H34 生活総合・学校保健・情報、H35 社会・美術・生徒指導

※開催地域や開催年度の変更が必要な場合は、静東・静岡・静西の各地区内の地域や研究部の中で調整を図ることを原則とし、きちんと手順を踏んだ上で変更していく。

<連絡> 平成31年度の講演会・一斉研の予定（今のところ）について

※まだ確定ではありませんが、ほぼ次の期日で調整・確認をしているところです。

H31 小笠教育講演会 8月6日（火）

H31 一斉研究報告会 11月13日（水）